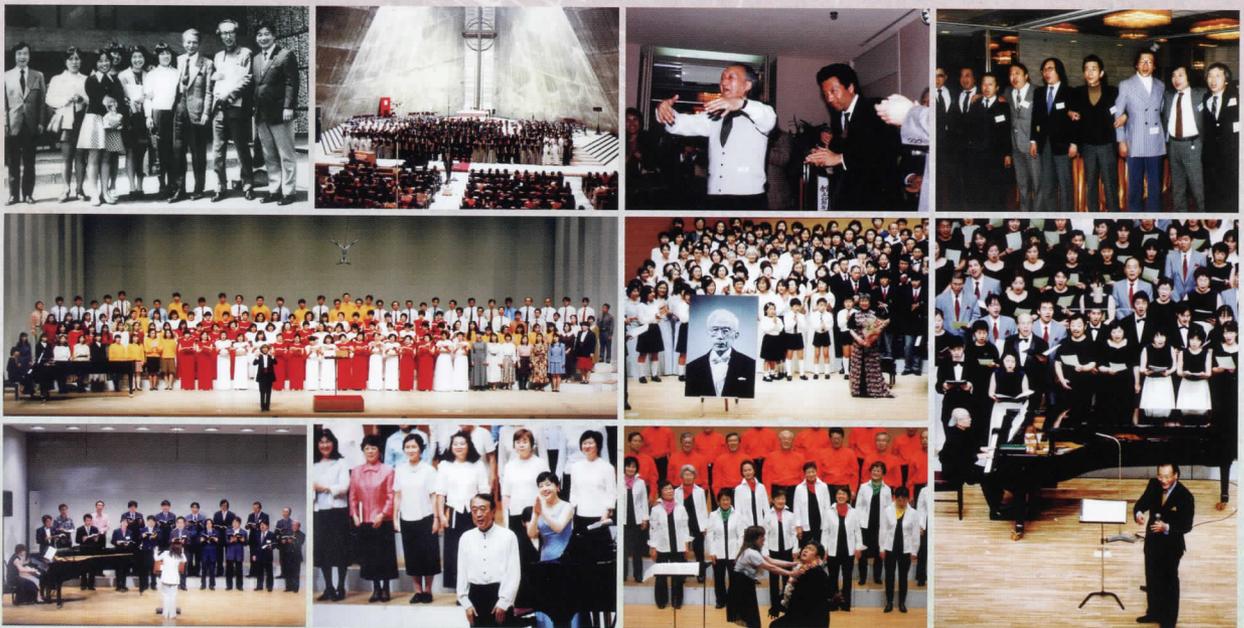


JCDA

日本合唱指揮者協会
創立50周年

合唱の祭典2013

～第14回北とぴあ合唱フェスティバル～



6/7(金)・8(土)・9(日)

北とぴあ

さくらホール・つつじホール・飛鳥ホール

【主催】JCDA日本合唱指揮者協会 【共催】東京都北区・(公財)北区文化振興財団・北区合唱連盟
【後援】朝日新聞社・全日本合唱連盟・音楽之友社・カワイ出版

■ さくらホール / 18:30開演

● ゲスト 高田江里 (ピアニスト) ● 司会 辻 秀幸

松田順子 指揮
女声合唱団 花野&花巻ユネスコ・ペ・セルクル
[Pf.]小笠原宜子

女声合唱曲「泉」(相浦清子 詩)

鈴木茂明 指揮
女声合唱団コーロ・コスモス
[Pf.]池田悦子

女声合唱のための「典礼聖歌」より(典礼聖歌編集部 詞)

1. 神を求めよ
2. 神よあなたのことはば
3. 神のはからいは
4. 元后あわれみの母

篠田正臣 指揮
Chor ADONISH

雅楽の旋法による「聖母賛歌」

1. マリアは天に上げられた
2. 恵みの母, マリア
3. あわれみの母
4. マリアよ あなたは美しい

松田 晃 指揮
盛岡コメット混声合唱団
[Pf.]雫石 環

混声合唱とピアノのための預言書による「争いと平和」より

- I. わたしたちは みな
- III. わざわいなるかな 血を流す町
- IV. エフラタのベトレヘムよ

中澤敏子 指揮
水戸うらら女声合唱団
[Pf.]田中直子

女声合唱組曲「雛の春秋」より(村上博子 詩)

1. 雛の季節
3. 秋の人形

須賀敬一 指揮
女声アンサンブル アトリエ
[Pf.]木島美紗子

女声合唱組曲「心の四季」より(吉野弘 詩)

1. 風が
2. みずすまし
5. 愛そして風

名島啓太 指揮
北区合唱連盟女声合唱団
[Pf.]岩井智宏

女声合唱組曲「遙かな歩み」より(村上博子 詩)

1. 機織る星
3. 花野

Pause

◆トークコーナー

~もしもあなたがいらっしやらなかったら~

[進行役: 鈴木茂明]

田中豊輝 指揮
大久保混声合唱団
[Pf.]川井敬子

混声合唱組曲「内なる遠さ」より(高野喜久雄 詩)

1. 飛翔—白鷺
3. 合掌—さる
4. 燃えるもの—蜘蛛

野本立人 指揮
合唱団ひぐらし
[Pf.]笈千佳子

混声合唱曲「わたしの願い」より

- II. 雲雀にかわれ (高野喜久雄 詩)

片野秀俊 指揮
登戸混声合唱団
[Pf.]木村裕平

混声合唱組曲「水のいのち」より(高野喜久雄 詩)

1. 雨
3. 川
5. 海よ

須賀敬一 指揮
合同合唱
[Pf.]高田江里

混声合唱組曲「心の四季」より(吉野弘 詩)

7. 真昼の星



●ゲスト
高田江里 [ピアニスト]

日本合唱指揮者協会、創立50周年を祝う、記念すべき「合唱の祭典2013」にお招きいただき、その上全出演者の皆さまと一緒に《真昼の星》を演奏する機会を頂戴し、心から感謝申し上げます。北とびあ合唱フェスティバルも、第14回をお迎えになるとのこと、本当におめでとうございます。また高田三郎の作品を愛し、歌い継いでくださっている、ご出演の指揮者の皆さま、合唱団のメンバーの方々にも、心から感謝申し上げます。

実は私、2002年、第3回北とびあ合唱フェスティバル、作曲家個展シリーズ Vol. 3 高田三郎に出演させていただいております。お声をおかけくださったのは、今回プロデュースして下さる、辻秀幸さんの御父上、辻正行先生でした。辻先生は、1950年代から父のところに音楽理論、指揮を勉強にいらしていた、言わば古参のお弟子さんで、包容力のある、誠実なお人柄、

あの気難しい父が全幅の信頼をおいていたことが、子供心にも伝わってきました。

ご令息の秀幸さんと、親しくお仕事をさせていただくようになり、その包容力、細部にわたる、行き届いた思いやり、そして妥協のない音楽への情熱は、まさにお父様譲りだと感じております。その、私が父から受け継がなかった面を豊かにお持ちの秀幸さんと対談することになり、どんなことを聞かれるのか（そして乗せられてお話ししてしまうのか）、おそろしいような、楽しみなような期待でいっぱいです。

演奏させていただく《真昼の星》は、皆さまご存知の通り、吉野弘作詞の《心の四季》の終曲です。詩を深く味わい、音にして表現する。深い人生のひだを、合唱曲として、演奏する人にも、聴く人にも届けようとする姿勢は、父が自分のいのちをかけて貫いたものと、この曲を作曲した時代の父の年齢を越える昨今、強く感じております。そのメッセージは、ただ「真昼の明るさの中で、人に見られることなく謙虚に生きる」ということだけではなく、「輝くことを取り去っても、そこに確かに存在するいのち」の力強さを、私はこの曲から感じ、勇気を与えられています。

★
プログラム・ノート

●女声合唱団 花野&花巻ユネスコ・ペ・セルクル

女声合唱曲「泉」

「泉」は1966年10月16日、清泉女子大学コロ・オルキデア（指揮・石井忠吉・於東京）、浦和第一女子高等学校（指揮・尾花勇・於埼玉）により、同時に行なわれたとのことです。作曲家自身の指揮によるCDもあります。1964年の「水のいのち」、65年の歌曲「ひとりの対話」、67年の「心の四季」、「雛の春秋」等々の大作の中であって、66年の「泉」は単独の曲ながらその構成の確かさから、歌い継がれている名曲です。次の3つの演奏会に於ける「泉」は、他の演奏された作品と共にたいへん素晴らしいものでした。①1991年6月9日「高田三郎喜寿をお祝いして」②1993年11月29日「高田三郎傘寿をお祝いして」③2004年12月25日「辻正行追悼演奏会」。

（松田順子）

●女声合唱団コーロ・コスモス

女声合唱のための「典礼聖歌」より

1963年、第二バチカン公会議の決定により、それまで全てラテン語で行われていたミサは、各母国語によっても良いこととなり、各国はミサのための聖歌、いわゆる典礼聖歌の創作を開始した。わが国では日本カトリック司教団の要請を受け、日本で初めてその作曲に着手したのが高田三郎であった。その作品はグレゴリオ聖歌の精神を根幹とし、グレゴリオ聖歌の旋法と日本伝統音楽の旋法、グレゴリオ聖歌のリズムと日本語のリズムを融合させた高田独自のものであり、日本人の祈りの心を呼びます。この高田の典礼聖歌は220曲にのぼり、50年を経た現在、プロテスタント教会や一般の合唱団でも歌われるようになってきている。

（鈴木茂明）

●Chor ADONISH

雅楽の旋法による「聖母賛歌」

「この曲は、ローマのサンタ・チェチリア協会からの委嘱により1958年から59年にかけて作曲された。私はこれらの作品を、かねて研究していた雅楽の「催馬楽」「神楽歌」などの旋律的特徴により構成した。初演は1959年、広島のエリザベト音楽大学に於ける第一回宗教音楽会議で同大学合唱団により行われた」（作曲者のプログラムノートより）。

日本の伝統的な音組織と、西洋音楽の根幹にある祈りの歌との融合の試みは、作曲者の深い精神性によって見事な祈りの歌となった。バロックやルネッサンスの様式も巧みに配置されたこれらの賛歌は、作曲者のドラマティックな作品と相通うひたすらな祈りの歌となって私たちの胸に響いてくる。

（篠田正臣）

●盛岡コメット混声合唱団

混声合唱とピアノのための預言書による

「争いと平和」より

《預言書による“争いと平和”》全5曲は、1983年豊中混声合唱

団の委嘱により作曲、同年作曲者の指揮により初演。Iはマラキ書からのもので、神を父仰いで励むべきことを勧める内容。IIIはナホム書からのもので、紀元前612年の世界史の大事件＜強大を誇ったアッシリア帝国がメデアとバビロンの連合軍に攻められ、首都ニベネは陥落、地上から永遠にその姿を没した時の有様＞を描いている。曲は、攻め寄せる軍隊の生々しい描写で始まり、この戦いの後、ニベネの王も貴族も死の中に眠り、民は牧者のない羊の群れのように散らされて行く。この詩はニベネ陥落の直前に書かれたとみえる人々が多い。IVはミカ書から＜救世主の来臨＞が語られる。「エフラタ地方のベツレヘムは小さな村だが、その中から救世主が出ることは昔から定められたことだった。しかしその時までは彼らはイスラエルの子らとして苦難（捕囚）の中に置かれる」ミカは紀元前約七百年頃に活躍した預言者。

（松田 晃）

●水戸うらら女声合唱団

女声合唱組曲「雛の春秋」より

早春の3月 春の予感にふるえながら、とり出される雛、この日本に古く永く続けられてきた雛祭りに子供達の期待と喜びの前に飾られる雛段は、楽譜の中に眠っている音楽の晴れの演奏舞台と似たものだろうか。この曲を聴く度に、それがまるで緋毛氈の上の雛人形であるかのように見えてくるのだ。これは1990年先生をお迎えしての水戸公演プログラムのおことばの一部です。今宵私達は、ひとめひとめに心をこめて織られる歌声が、この上なく美しい雛の袖となって皆様のお心の奥に届きますように一生けんめい演奏したいと思っております。

（中澤敏子）

●女声アンサンブル アトリエ

女声合唱組曲「心の四季」より

吉野弘の詩は平明な言葉遣いで四季折々、移ろう自然の中に生きる人々の心を描きます。形而上的志向の強い高田作品の中にあって「心の四季」は歌いやすく、取り付きやすい高田作品への入門曲ともいわれています。見えない時の流れに洗われ、磨かれ、包まれている心。分厚い日常という名の水面に浮いていて潜らないし、潜ろうともしない私たち。その1曲目への返し歌が「愛そして風」なんでしょうか。1967年、芸術祭参加作品。NHK名古屋の委嘱。GNP2桁の伸び、モーレツ時代。みんなが働くということだけに夢だった時代。その時、人間の心のありか問うた「心の四季」。その後の私の人生を決めた曲でもあります。

（須賀敬一）

●北区合唱連盟女声合唱団

女声合唱組曲「遙かな歩み」より

タイトルの「遙かな歩み」について作曲者は「過去へ遙かであると共に、未来へ向っても遙かなのである。」と述べている。第1曲「機織る星」。祈りをこめて、この世の乙女たちのために織女星が織る布には、羽の大きな青い蝶の模様が美しく織り込まれ、それこそが「天の川」であり、「褪せないものの証明」であると歌い上げる。第3曲「花野」。祖母たちの歌。それは「契りの歌」であり、「いのちの歌」である。その歌と共に「お前は歩いて行け」と自らの心に語りかける。両曲とも、詩人の大切な思い出から生まれた詩であり、「定めなく激しく揺れ動く時代にこそ、明日の最も美しい心と形のために、人々が遙かな歩みを歩むように。」との願いが込められている。

（名島啓太）

●大久保混声合唱団

混声合唱組曲「内なる遠さ」より

「内なる遠さ」は、昭和53年度の文化庁芸術祭優秀賞を受賞した作品です。動物たちが何気なく取る行動、習性。そこに詩人は、生き物の“生”そのものを見つけ、その思いは、人間としての自分の“生”へと深く注がれてゆく。授けられた命に対する真摯な希求。高田三郎の音楽は、ときに劇的に、ときに静かに語りながら、聴くものへと迫ります。

雪となり幾度でも清らかに甦る「白鷺」、手をすり合わせる猿に、命を奪うことの因果を思い、自分の内面を映される「猿」、いつ辿り着くともわからぬ答えを求めて、自分の内部を手繰り続ける「蜘蛛」。詩人と作曲家による全ての命に向けた慈しみが、私たちの声を通じて皆様的心へと届きますように。

(田中豊輝)

●合唱団ぐらし

混声合唱曲「わたしの願い」より

1961年NHK(東京)より委嘱、第1回の芸術祭参加作品として作曲された。初演は同年11月24日、放送により行われ、その年の芸術祭賞(のちの大賞に相当)を受賞した。演奏は田中信昭指揮の東京混声合唱団、ピアノは是安亭。「水のいのち」、「ひたすらな道」など多くの名作を生み出した高田と高野喜久雄のコンビだが、このときがはじめての出会いであった。作品は「いまわたしがほしいのは」と「雲雀にかわれ」の2曲からなり、1曲

目に登場する「狂った友」のエピソードが全曲を通じる象徴となっている。ベッドの脚をなでながら「きれいな水が流れているのよ」と言う友。「わたし」はその無垢にふれ、自らの「願い」もそこにあることに気づく。2曲目はその気づきの先にある「希望」とも言える。

(野本立人)

●登戸混声合唱団

混声合唱組曲「水のいのち」より

組曲「水のいのち」は昭和39年「日本合唱協会」において初演され、またたく間に全国各地で歌われるようになって、数年後には、日本の合唱曲の中でも例を見ない大ベストセラーとなり、以来約50年も経ても、他の追従を許さない不朽の名作、日本合唱曲の至宝として燦然と輝き続けている。私は高田先生自らの指揮で数10回歌わせて頂き、100回を越え、多くの合唱団で指揮をして来たが、その度に新しい感動に心が震え日頃の生き方を顧みる機会を与えられて来た。ここにカーネギーホールでの演奏の折、高田先生に頂いたメッセージの一部を紹介したい。「このような内容の曲は、世界中に今も昔もない。」

(片野秀俊)

●合同合唱

混声合唱組曲「心の四季」より

* ゲストページ・女声アンサンブル アトリエの項をご参照下さい。

★指揮者



松田順子

若手大学を経て東京藝術大学委託課程修了。若手県立花巻南高校、同盛岡第二高校に勤務。69年～89年花巻女声合唱団、89年～2003年女声合唱団フィオーレを指導。現在、女声合唱団花野、花巻ユネスコ・ベルクル、北上・コーラスせせらぎ、宮一女OG合唱団指揮者。3.11大震災直後、辻秀幸氏・高田江里氏・8人の女声歌手と共にローマ・サンタチェチーリア大ホールで「マリアの歌」を演奏。



鈴木茂明

国立音楽大学大学院修了。ドイツ歌曲、発声構築法を莊智恵、L.カラーの両氏に師事。リサイタル、オペラ等に出演。CD「ドイツ歌曲集一運かなる恋人へ」をリリース。合唱指揮においては、パレストリーナ音楽財団などの招聘を受け、伊、仏で演奏。イスラエル典礼聖歌の旅(指揮：高田三郎)では、副指揮及び指揮を務める。指揮法と演奏法を高田三郎に師事。1993年より高田作品の個展「ヒトクワイズ演奏会」を毎年主宰。コロソフィア、筑波大学混声合唱団その他の指揮者。日本演奏連盟会員。



篠田正臣

国立音楽大学作曲科卒。作曲を高田三郎、和声を島岡譲、声楽を野中匡雄の各氏に師事。在学中に合唱団を組織して以来、作編曲、指揮活動の場を広げ現在に至る。又、海外演奏旅行にも力を入れ、アッシジのサン・フランチェスコ教会、フィレンツェのサンタ・マリア・テル・フィオーレのミサでの演奏、その他イギリス、ハンガリー、ドイツ、イタリア、スペインでのコンサートなどを通じて海外との文化交流に積極的に取り組んでいる。



松田 晃

1931年若手県盛岡市生まれ。全日本合唱連盟名誉会員、若手合唱連盟顧問、若手声楽研究会名誉会長。1958年に歌曲集「前奏曲抄」に衝撃、高田歌曲に傾倒。62年「わたしの願い」を購入、63年盛岡コンクールに出演。高田歌曲指揮者就任、以来高田作品を中心に活動。66年高田氏と出会う。68年から指揮法を師事。73年「<歌曲・ピアノ曲・合唱曲>による高田音楽の夕開催。79年「ひたすらな道」を初演。



中澤敏子

東京藝術大学委託声楽科卒業。茨城県立水戸第二高校在職中、コーラス部の指導者として、全日本合唱コンクールに19回出場し、二度の金賞受賞をはじめ、多くの入賞を果たした。現在、野ばら会・水戸うらら女声合唱団・美と女声合唱団の常任指揮者として、数々のコンクールや演奏会に出演。2006年に「振り続けて50年指揮リサイタル」を行った。昨年文化地域功労者として文部科学大臣表彰を受ける。21世紀の合唱を考える会 合唱人集団「音楽樹」・日本合唱指揮者協会会員。



須賀敬一

早稲田大学理工学部卒、在学中は早大グリーククラブ学生指揮者。磯部徹、高田三郎の両氏に師事。1962年より2000年まで豊中混声合唱団の常任指揮者・音楽監督。内外の現代曲を中心に意欲的な活動をした。現在も女声アンサンブル・アトリエのほか、関西圏を越えて数多くの合唱団の指導を続けている。全日本合唱連盟名誉会員、関西合唱連盟最高顧問など。



名島啓太

立大在学中より合唱指揮を始め、多くの演奏会出演や企画を行う。また合唱コンクール全国大会金賞受賞等、多くの入賞を果たしている。二度にわたるウィーン楽友協会での演奏や、ブラハでのモーツァルト「レクイエム」の演奏が絶賛されるなど、海外での演奏も積極的にこなしている。現在も東京、神奈川、新潟の合唱団数団体の常任指揮者を務める。日本合唱指揮者協会理事、事務局長。北区合唱連盟理事長。「合唱ハンドブック」(カワイ出版)編集委員長。



田中豊輝

国立音楽大学大学院音楽研究科声楽専攻(ドイツ歌曲)修了。声楽を内木邦子、佐藤峰子、眞崎美彌各氏に、合唱指揮を辻正行氏に、合唱指導を今井邦男氏に師事。現在、大久保混声合唱団、Mille-Uonoなどの9つの団体の指揮者、グリーンウッドハーモニーなどのボイストレーナーとして活動。2010年には、静岡大学混声合唱団を指揮して、全日本合唱コンクール全国大会にて金賞を受賞。桐朋学園大学嘱託演奏員。



野本立人

東京藝術大学卒業。同大学院修士課程修了。在学中から声楽家および合唱指揮者として活動し、NHK全国学校音楽コンクール課題曲「手紙」(アンジェラ・アキ)、「YELL」(いきものがかり)、「fight」(YUI)などを放送初演。2011年にソロCD「花～わたしたちのうた」をリリース。合唱団ぐらし、合唱団まるめる、合唱団轟・TODOROKI、女声アンサンブル桜組など多数の団体の指揮者を務めている。合唱人集団「音楽樹」幹事。兵庫教育大学大学院准教授。



片野秀俊

東京声専音楽(現 昭和音楽大学)卒業。プロ合唱団・日本合唱協会にて、1985年指揮者デビュー。定演、特演他、同団を伴い全国各地で公演を行う。海外はカーネギーホールを初め13ヶ国、17都市で演奏し好評を得る。NHK「みんなのコーラス」レギュラー解説者を務め、アマチュア合唱団の育成にも力を注ぐ。指揮法を山田一雄、フムルト・リリング、山本直純他、演奏解釈法を平井康三郎、清水脩各氏に師事。全日本合唱連盟理事、東京都合唱連盟顧問、日本合唱指揮者協会会員。

★司会



辻 秀幸

東京藝術大学声楽科・同大学院独唱科修了。欧州数都市でベートーヴェン「第9」のソリストを務め、各地で様々なコンサートに出演し好評を博す。国内でもドイツ・イタリア・日本歌曲を中心に各地でユニークなリサイタル活動を展開。宗教音楽の演奏家・指揮者としての活躍は特に目覚ましく、近年では海外での演奏機会も増え、その活動は常に注目を集めている。洗足学園音楽大学客員教授、日本合唱指揮者協会理事、東京都合唱連盟理事 Ensemble BWV2001メンバー。

★共演者



小笠原京子

国立音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。ピアノを瀬川慶子、野呂愛子、松原緑の各氏に師事。現在独唱及び合唱などのアンサンブルピアニストとして活動。



池田悦子

桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ科卒業。北村陽子氏、G・シエベック氏、A・ピヒト氏に師事。伴奏法を荏智恵恵氏に師事。卒業演奏会、読売新人演奏会、各地での新人演奏会にデュオで出演。高田作品については、作曲家本人から作品の真髄を極めるレッスンを何度も受け、今なお鈴木茂明氏のもとで研鑽を積み、研究し続けている。2004年5月イタリア・ローマ、パレストリーナにてコーロ・ソフィア、女声合唱団コーロ・コスモス、筑波大学混声合唱団のピアニストを務める。



栗石 環

国立音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。ピアノを瀬川慶子・辛島輝治・池澤幹雄・大場俊一の各氏に、伴奏法を大場俊一氏に師事。ウィーン音楽大学夏期講習受講。第46回若手芸術祭芸術賞受賞。平成2年より盛岡コメット混声合唱団のピアノを受け持ち、数々のコンクールや演奏会に出演。2011年2月ソウルリサイタル、2012年12月2台ピアノによるデュオリサイタル開催などソリスト、合唱や声楽、器楽のアンサンブルピアニストとして音楽活動を行っている。



田中直子

武蔵野音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。ピアノを渡辺久子、市橋徹雄、田中直子、藤波結花各氏に師事。伴奏法を甲斐正雄、塚田佳男両氏に、ドイツリート伴奏法を森島彦氏に学ぶ。第10回梅名梅の里音楽祭日本歌曲セミナーにて奨励賞受賞。'10年4月伴奏リサイタルを開催。合唱、声楽のアンサンブルピアニストとして活動している。歌と詩に寄り添う柔軟な音楽には定評がある。「瑤の会」「瑞穂の会」合唱人集団「音楽樹」各会員。



木島美紗子

大阪音楽大学ピアノ科卒業。在学中より関西二期会のピアニストを10年間務める。朝比奈隆指揮大フィルと共演。大阪、東京、名古屋などで高田三部氏の伴奏者を務め、イスラエル・ローマ・ヴァチカンの演奏会に同行。1996年6月より、ウィーンのムジーク・フェラインでの演奏会に出演。女声アンサンブル アトリエ・リヒトクライス・豊中混声合唱団・東海メールクワイヤーなどとの共演が多い。



岩井智宏

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。第4回「万里の長城」杯国際音楽コンクール第3位入賞。2002年、日中国交正常化30周年記念イベント青少年交流大会、中国（北京）にて東京稲城多摩青少年少女合唱団の伴奏を務める。飯塚新人音楽コンクール入選。第7回日本アンサンブルコンクール連弾部門優秀演奏者賞、全音楽譜出版社賞をそれぞれ受賞。受賞者披露演奏会出演。2007年から毎年東京にてソロ&デュオリサイタル「音のアルバム」開催。



川井敬子

桐朋女子高校音楽科ピアノ科専攻を経て、同大学音楽学部を卒業後渡米。インディアナ州立大学音楽科アーティスト・ディプロマコースを修了。イリノイ州カウカッキーコンペティションにて第2位入賞。帰国後、第9回ビティナ・ピアノコンペティション特級にて銅賞受賞。日本演奏連盟主催による「えんれんコンサート」に出演。現在、ソロ活動の他、器楽・合唱の伴奏、録音などで活躍中。上野久子、故井口愛子、故ジヨルジュ・シエボック、メナム・プレスラー各氏に師事。



寛千佳子

仁愛女子短期大学音楽科及び同専攻科卒業。仁愛女子高校音楽科講師を経て、現在は主に声楽、器楽、合唱等の伴奏者として活動。ピアノを含むアンサンブルに特に強い思いを持ち、ピアノ・デュオによるコンサートを開催する他、女優の竹下景子との協働による、朗読とピアノのコラボレーションなども手がけている。近年では小児がんの子どものためのチャリティー公演「ごえんごんごさあ」とプロデュースするなど多方面にわたって活躍している。認定NPO法人朴の会副理事長。



木村裕平

ブラジル生まれ。ドイツに育つ。武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。第一回武蔵野日本の歌コンクール伴奏特別賞受賞。現在多数オラブラトクシオンのコレペティをはじめ、声楽及び合唱のピアニストとしてリサイタルや録音等、活発な演奏活動を行う。また声楽家・新垣勉氏のオフィシャルピアニストとして、各地でのリサイタルやCDレコーディング、及びNHK、テレビ朝日、テレビ東京、TBS等多数メディアにて共演している。

★合唱団

女声合唱団 花野&花巻ユネスコ・ペ・セルクル

女声合唱団 花野は、若手県立花巻南高校時代に松田順子先生より合唱の指導を受け、卒業後も「花巻女声合唱団」から「高田三部を歌う会」となり現在「女声合唱団 花野」として月一回県内各地から花巻に集い楽しく歌っています。高校時代高田三部先生から「雛の春秋」を教えて頂いたことを大切に今まで続けてまいりました。そして、花巻ユネスコ・ペ・セルクルは、1966年花巻ユネスコ協会設立と同時にその活動の一環として発足。宮澤賢治関係の行事への参加、協力等、幅広い活動をしています。1987年スペインのユネスコ世界大会で歌ったことが今でも忘れられません。

女声合唱団コーロ・コスモス

創立21年目を迎える。豊かな音楽表現に不可欠な発声法の習得に励みながら、詩と音楽が深く融合した作品に命を吹き込むべく、歌唱法を学んでいる。高田作品については、「マリアの歌」を委嘱初演（ピクチャーCD収録）。「三つの子守歌」は指揮者夫人に女声合唱への編曲を依頼し初演した。創団以來高田作品を歌い続け、度々この指揮に、人生への示唆も与えられた。1993年より毎年、高田作品の個展「リヒトクライス演奏会」にも参加している。

Chor ADONISH

指揮者を同じくする合唱団の有志で結成され、個性も活動も異なる団のメンバー1人ひとりが心を寄せ合い、練習を重ねてまいりました。日本古来の音に想いを馳せ、西洋の折りの歌の響きに耳を澄ませる時間は、貴重な学びの場となり、かつて訪れたヨーロッパの聖堂の響きを思い起こさせるひと時となりました。高田先生の記念の年にこの賛歌を演奏させて頂く喜びを感じながら、精一杯演奏させていただきます。

盛岡コメット混声合唱団

当合唱団は、1958（s33）年に創立。レパートリーは、ルネサンスから近代までだが、高田作品とプログラムが中心。「心の四季」ステージ初演昭和43年2月、「ひたすらな道」委嘱初演（作曲者指揮）、レコーディング「ひたすらな道」「内なる遠く」（作曲者指揮）等。今年、第50回定期演奏会～高田三部生誕百年よせて～を6月29日（土）若手県民会館にて開催予定。「わたしの願い」「水のいのち」「争いと平和」等を演奏します。

水戸うらら女声合唱団

中澤敏子常任指揮者のライフワークである「美しい日本語を大切に、詩心を訴える歌唱法」を研究しながら歌い続け一昨年11月水戸芸術館において35周年記念演奏会をいたしました。活動の大半を占める邦人作品のうち古歌は故木下保生提唱の「やまとことば」に魅せられて歌い、現代曲もそれらに裏打ちされた日本語のくちごとくところを大切に歌い続けております。第48回全日本合唱コンクール全国大会（香川県高松市）、全日本おかせんコーラス全国大会7回出場など。

女声アンサンブル アトリエ

大阪・千里ニュータウンを拠点に1979年に結成、1992年に須賀敏一先生を指揮者にお迎えして以来、多くの高田先生の作品を歌ってまいりました。そして高田作品を通して、人間としての生き方、あるべき姿、アミサ曲では曲の中にも流れる深い精神性を表現することなどを指揮者から指導を受けております。今日の「心の四季」、日本の四季の美しさを外界の風景だけでなく、内面的にも表現出来れば嬉しく存じます。

北区合唱連盟女声合唱団

北区合唱連盟は、1980年合唱音楽祭の普及、発展向上を目的に結成され、現在40団体が加盟、毎年著名な合唱指揮者、作曲家、声楽家等を招いた講習会と合唱祭を開催している。1994年から、国内外の著名な演奏家を迎えている「北とびあ国際音楽祭」にも参加、協力し、合唱祭のゲストとしても招いている。フェスティバルに参加するため、北区合唱連盟の加入団体から有志により結成した女声合唱団である。

大久保混声合唱団

1957年9月創設。以来、故辻正行に47年にわたり指導を受け、2004年から辻志朗、2008年から田中豊輝を正指揮者として精力的な活動を続けている。特に高田先生と辻正行先生は師弟関係を越えた深い信頼で結ばれ、様々な演奏会で高田作品を歌い継いできてはいるが、混声作品全曲の録音も果たしている。本日は、「大久保のDNA」を受け継いだ私達の心を込めた「内なる遠さ」を、ぜひお楽しみください。

合唱団ひぐらし

1988年指揮者の野本立人氏を中心となって結成。1998年、全日本合唱コンクール全国大会にて金賞を受賞。「指揮者を兼ねた一人一人が同じ重さで固く存在すること」をモットーに、ジョイント・コンサート、新作初演、Tokyo Cantatをはじめとする各種演奏会への出演など、様々な出会いの中で音楽づくりに積極的に取り組んでいる。

登戸混声合唱団

団活動の主軸は、毎年12月に開催するチャリティ「ひとひらのあいコンサート」。今年で26回を数え、地域の風物詩となっています。一方、これまで9か国 16都市で行っていた海外演奏も大きな柱。95年の第1回目、NYのカーネギーホールで「水のいのち」を歌った際には高田先生のお世話にもなり、登戸にとっては最も大切な一曲となっています。指揮者の片野先生は1980年登戸の生みの親。今日まで育てていただきました。